

到彼岸に問う「命の有様とその行末」

「お彼岸」は、古代から今に続く日本特有の仏事です。お墓参りをして先祖の生死に思いを馳せ、自らのいのちの本性を自覚する営みです。しかし、その真意を知る者ははなはだ少ないようです。

「彼岸」とは正しくは「到彼岸」、つまり此の岸を離れ彼の岸に「私」が到ると言うことです。

娑婆の見立では、この世からあの世である。ご先祖様はあつちに行つたけど私はまだこつちにいる。いずれは私も逝くけどまだまだ早い。いつまでもこの世に未練がある。コロナ禍中で唯一学んだこと、人は苦楽に翻弄され「死にとらない金欲しい」という迷いの欲海から出られない。仏の教えに聴くと、此岸は欲界と言う娑婆濁世、彼岸は仏が薦める浄土の悟りです。此岸と彼岸の間には途方もなく越えがたい「我執」という壁があります。仏教はこの我執の壁を問題にします。

真宗では先に逝つた者を先達と言います。自分よりも先に行つたからだ。人は仲間と言う社会を作り、互いの様子を伺いながら自らの行動を決して行く。借物の身体が滅尽のとき、その心行を先達に聞きたい。しかし、先達はもういない。だから、仏に聞くしかないと言うことです。これが彼岸の仏事を勤める者の心構えです。

今年も春の彼岸会が勤まる。先達の供養を縁に、私のいのちのありようとその行く末を仏さまの智慧を載いて訪ねてみようと思います。

春彼岸会の午前中行事再開

中日にはコーラスの讃歌が奉納され、三日とも法要中に写経が行実されます。

おときの昼食（六百元）をご用意します。（なくなり次第終了）

本徳寺春彼岸讃仏会日程

三月十九日・二十日・二十一日

午前七時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂・法話

午前十時 門徒勤行 蓮如堂・続き説教

午後一時 春彼岸法要 本堂・続き蓮如説教

布教 龍野・西法寺 岩谷教授師

お説経は、法要・お勤め・勤行の後、蓮如堂於

●本坊永代経法要 四月十一日・十二日

●本坊蓮如忌法要 五月十七日

いずれも午前の行事とおときの昼食が用意されます。

個別納骨壇利用のご案内

亀山本坊で自己管理型の納骨壇の利用が出来ます。ご希望の方は左お問合わせ下さい。

問合先・本徳寺事務所・電話（235）0242